

本時のねらい

- ・目的地への道案内表現に慣れ親しむ。
- ・積極的に相手に英語で伝えたり、話していることを理解しようとする。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・go straight turn rightなどの記号を並べて表現することで、アルファベットを書くことが苦手な児童も道案内をすることができる。
- ・様々な人の道案内の経路を発表ノートに記録することで、表現に慣れ親しませる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・スクリーン
- ・Sky Menu Classの発表ノート

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (7分)	<ul style="list-style-type: none"> ○場所や建物の言い方を復習する。 ○ペアで場所や建物の言い方を復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表ノートを使って問題を出し合うことで、互いに単語を確認することができる。
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ○宝の場所カードを配付し、その場所への道案内をするための経路を発表ノートにメモをする。 ○ペアで練習する。 ・相手に道順を伝え、聞く側は発表ノートに道順の経路を書き込む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>S1: Where is the treasure? S2: Go straight. Turn right. Go straight. . . .</p> <p>S1: Here is the 場所. S2: Yes!/No! S1: Thank you.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表ノートには地図と go straight turn right turn left stop の記号があり、道案内の経路を試行錯誤しながらメモすることができる。 ・聞く側は発表ノートに道順を書き込む。簡単にやり直しができたり、新しいページを追加することで複数の児童の道案内を記録することができる。
まとめ (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ○代表児童の道案内を全員で聞き、自分のタブレットに経路を書き込む。 ○本時の学習を振り返る。 	

1人1台端末を活用した活動の様子



場所や建物の言い方を復習している場面



宝の場所の道案内をするための経路を発表ノートにメモしている場面



ペアで道順を伝え合い、聞く側は経路を発表ノートに書き込んでいる場面

児童生徒の反応や変容

従来は教員が前でフラッシュカードを見せ、その単語を発声させるという活動を行ってきた。しかし、自分のすぐ近くのタブレットを操作することで単語を覚えることが苦手な児童も自分に合ったペースで学ぶことができた。また、道案内をする場面では go straight turn rightなどの記号と言葉、実際の道順の記録を対応させることで、相手にも伝えやすくなり、自分の英語が相手に伝わるという経験をさせることができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

その単元で理解させたい単語や文章を発表ノート上のフラッシュカードを使って活動することで、個人のペースに合った学習につながった。これは英語だけでなく漢字やことわざなどを覚える時にも役立つことだと思う。また、道案内の経路をメモするときも紙ではなく発表ノートを利用することで、容易に複数の人数分を記録することができ、より多くの意見を聞きに行こうとする意欲にもつながった。